

江差町議会だより

No. 187

令和元年11月1日発行



令和元年
9月議会

改選後初めての一般質問で
8人が登壇

—もくじ—

- ◆定例会の主な内容・・・・・・・・・・2～3P
- ◆行政報告、意見書・・・・・・・・・・4P
- ◆一般質問・・・・・・・・・・5～12P
- ◆委員会経過報告
全員協議会、議員出欠状況・・・13P
- ◆議員会清掃活動、議会研修会
今号の表紙、議会の動き・・・14P

令和元年第3回定例会が9月11日に行われ、条例改正、予算補正など、提案された案件を審議し、全て原案通り可決しました。

また、8人の議員が一般質問を行い、さまざまな観点から町政に問いかけました。

初議会で議会構成決まる！



打越 東亜夫 議長
(9期目)



萩原 徹 副議長
(4期目)

任期満了に伴う町議会議員選挙が7月21日に行なわれ、13名が立候補し、激しい選挙戦が繰り広げられ、即日開票の結果、12人の当選者が決定しました。

8月11日から新しい議員の任期がスタートし、選挙後の初議会となる令和元年第1会臨時会を経て、議長、副議長、各常任委員会等の委員長や副委員長が決定しました。任期は令和5年8月10日までとなります。(議席順、当選回数)



薄木 晴午 議員
(9期目)



飯田 隆一 議員
(8期目)



室井 正行 議員
(7期目)



小梅 洋子 議員
(2期目)



塚本 眞 議員
(2期目)



西海谷 望 議員
(2期目)



小野寺 真 議員
(8期目)



小林 くにこ 議員
(2期目)



出崎 太郎 議員
(1期目)



大門 和幸 議員
(1期目)

議会運営委員会

委員長	小野寺 真
副委員長	飯田 隆一
委員	室井 正行
委員	塚本 眞
委員	西海谷 望

総務産業常任委員会

委員長	西海谷 望
副委員長	出崎 太郎
委員	薄木 晴午
委員	飯田 隆一
委員	小野寺 真
委員	萩原 徹

社会文教常任委員会

委員長	塚本 眞
副委員長	小林 くにこ
委員	室井 正行
委員	小梅 洋子
委員	大門 和幸

議会広報特別委員会

委員長	西海谷 望
副委員長	塚本 眞
委員	小林 くにこ
委員	出崎 太郎
委員	大門 和幸

第3回定例会 こんなことが決まりました！

条例改正

- ・江差町立保育所条例の一部改正
- ・江差町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正
- ・江差町立幼稚園設置条例の一部改正
国の幼児教育・保育無償化に伴い関係条文を改正するもの。
- ・江差町印鑑登録及び証明に関する条例の一部改正
住民基本台帳法施行令の一部改正に伴い関係条文を改正するもの。
- ・江差町港湾管理条例の一部改正
- ・江差港マリーナ施設条例の一部改正
消費税及び地方消費税の税率が10%へ引き上げられたことにより手数料を改正するもの。
- ・江差町給水条例の一部改正
水道法の一部改正により、指定給水装置工事事業者の指定更新に係る手数料等を定めるため、一部改正するもの。



かもめ保育園

健全化判断比率等の報告

実質公債費比率 16.7%

早期健全化基準の25%と比較すると8.3ポイント下回っている。前年度と比較すると1.2ポイント悪化している。

将来負担比率 68.7%

早期健全化基準の350.0%と比較するとこれを下回っている。前年度と比較すると4.1ポイント悪化している。

人事

・教育委員会委員の任命（再任）

高岡 広明 氏（橋本町・60歳）

任期は令和5年9月30日までの4年間。



・教育委員会教育長の任命（再任）

太田 誠 氏（豊川町・61歳）

任期は令和4年9月30日までの3年間。



補正予算

<一般会計>

※主な事業のみ

◇プレミアム付商品券事業

1,100万円（全額国庫支出金）

- ・消費税引き上げによる低所得者等への影響緩和と消費喚起のための経費。

◇幼児教育・保育無償化事業等

195万3千円（国庫支出金他）

- ・法改正に伴うシステム改修等事務経費。

256万6千円（全額一般財源）

- ・私立幼稚園を利用している対象者利用料分の給付。

69万7千円（その他特定財源他）

- ・現在小中学校で実施の給食費補助と同率で補助するもの。

◇檜山さけふ化飼育施設整備

100万円（全額一般財源）

- ・飼育センターに浮上槽10基を新設等するための補助。

◇町道姥神中歌線道路照明LED化改良

220万円（その他特定財源他）

- ・いにしえ街道の道路照明をLEDへ改良する経費。

◇文化会館非常用発電装置改修

96万8千円（全額一般財源）

- ・経年劣化により非常用発電装置を改修する経費。

◇町道除雪対策 3,922万7千円（全額一般財源）

- ・町道の除雪に係る作業員の賃金や重機使用料、委託料等の経費。

◇江差町まちづくり推進交付金

5,814万円（全額一般財源）

- ・簡易宿泊所建設に伴う宿泊施設整備促進事業における補助交付金。

<特別会計>

◇介護保険特別会計

976万6千円（全額一般財源）

- ・介護給付費負担金等返還経費の補正。

決算認定

各会計の平成30年度決算認定について、閉会後開催される決算審査特別委員会に付託。

・一般会計歳入歳出決算ほか8会計

決算審査特別委員会の現地視察の様子（砂川4号通り）



一般議員が町政を問う

議員にとって「一般質問」は、議場という公の場で、町長や教育長に対して町政運営の考え方や将来に対する方針を質することができる唯一の場です。

◆質問は要約されています◆

議会だよりのスペースの都合上、質問・答弁は要約したものを載せています。

◆表示の説明◆

文中の(問、再問)はそれぞれ再質問、再再質問を表します。

第3回定例会 行政報告

定例会で次のとおり、町長、教育長が行政報告をしました。

【町 長】

1 寄付採納について

・匿名

現金100万円（中学校の楽器や運動器具購入に活用させて頂くこととしている）

・道南うみ街信用金庫 理事長 藤谷 直久様

江差産道南杉 木製ベンチ（旧檜山爾志郡役所の前庭設置し、観光客など訪れた方々に利用頂いている）

・株式会社ユーラス江差風力 代表取締役 高瀬 達秀様

現金190万円（町道姥神中歌線の道路照明LED化に活用させて頂くこととしている）

・北海道新聞函館支社 支社長 二階堂 敏文様

絵本ぶんちゃんのぼうけん 4冊（保育園と幼稚園で活用させて頂いている）



【教育長】

1 北海道江差高等学校の間口について

9月3日の北海道教育委員会において、令和2年度公立高等学校配置計画が決定した。

関係町と連携し、町長と教育長が代表して北海道教育委員会へ出向き、道教育長に江差高校の3間口維持を要望し、今回要望に沿い3間口維持で生徒募集することに決定した。

今後も、江差高校関係者や各町と連携し、学校説明会や進路指導などを通じて、同校の教育活動の特色や成果について丁寧な説明を行うなど、入学者数が3間口維持できるよう対応していく。



意見書を提出

9月定例会では3件の意見書が提出され、2件を可決、関係行政機関へ提出しました。

◆林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

◆ブラごみ対策を市町村への押し付けをやめ、ごみを出さないシステム確立を求める意見書



「北の江の島構想について」

北の江の島構想の最大目標は何か。いつまでに議会や町民に全体像を明示するのか。地区周辺の諸課題解決策と連動した構図でなければならぬと認識するが如何か。

後世へ継承できる歴史性を取り入れた本質的な賑わい空間を作るべきと考える。重機を使用したのぼりの耐久度判断はどうか。認識しているか。構想がある程度コンクリート化されたものでないと、第6次総合計画等に連動できないのではないかと、

町長 最大の目的は、景勝や史跡等の自然環境や歴史文化、海の駅開陽丸、江差港マリーナ等の江差ならではの資源を活

用し、江差を代表する観光の拠点として、交流人口拡大による稼ぐ力、儲ける仕組みを構築し、地域の活性化を目指すところにある。構想の全体像は、年度内には一定の全体像を示す予定で、示す前には議会とも十分意見交換を行いたい。かもめ島は町のシンボルとして、町民の心の拠り所として大切にしなければならぬもの。古き良き文化や資源と新たな魅力を融合した空間となるよう努める。のぼりは判断基準を設け安全対策を行っていく。

町長 かもめ島周辺の全体構想による国補助金を有効に使い整備していく

「宿泊施設について」

平成27年度から3か年継続実施した宿泊施設改修補助を打ち切りにしたのは何故か。既存宿泊事業者優先制度を確立したうえで、まちづくり推進交付金制度を検討すべきでは。

町長 宿泊施設経営事

業者の施設改修ニーズ等を調査し実施してきた要望が少なくなったことや当初要望額の2千万円を達成できたこと等から3年目を最後とする旨を伝え事業申請頂いた。まちづくり推進交付金は、新たなチャレンジを生み

べき。北の江の島構想のコンサルタント委託の成果品はどう活用されたのか。

まちづくり推進課長 今年度内に一定の全体像を示す予定。成果品は市街地活性化検討委員会等で構想を具現化するための検討材料として活用している。

副町長 最低でも2回くらい全員協議会で意見交換したい。

町長 国道カーブからアネロイド気圧計、折居社も含めた周辺からかもめ島に行く全体構想が、国に要請する場合有利と考えるが。

まちづくり推進課長 町の構想と議会の委員会から報告された考え方に乖離がある。年度内には議会と協議したい。

出す視点をもとに制度設計されており、今後の有り方は検討する。

町長 役場職員ではなく、住民として町民の中に入り、声を吸い上げる姿勢を持つてもらいたい。

副町長 宿泊事業者との意見交換をきちんとし、お互いのできる範囲で方策を進めていきたい。

「北海道江差観光みらい機構の運営支援について」

同機構への町の補助金は3,276万円で、内人件費が2,999万円。91.5%が人件費である。多額の税金を投入した事業で、民間経営店舗を圧迫するようなことは認めない。他人任せの殿様商売は絶対あってはならない。来年度以降どう事業展開するか。

町長 ぶらっと江差の目指す経営は、町内に人、物、金の流れを生み出し、地域の稼ぐ力を引き出す主体となることで、民間個人経営者を圧迫する運営は考えていない。補助金を年々減少できる経営を目指す。

町長 交通も考えなが



地域を稼ぐ力を引き出す活動を展開するみらい機構

「財政の中長期計画について」

国や道の制度を取り入れ江差町を活性化するのが政治家。国の補助金を持つてくるという考え方が欠けている。新たな構想を作って、新たな補助金を持つてくるというのが政治家ではないか。

町長 まずは3年から5年程度の中長期的な財

政見通しや運営方針の策定を検討し、その内容をお伝えしたい。第6次総合計画と次期マチ、ヒト、シゴト創生総合戦略が作成されるが、庁内議論、財政協議を経たうえで、様々な機会においてお示ししていきたい。



「檜山沖大規模洋上風力発電について」

北海道の気象環境を活かした大規模洋上風力発電の構想が複数発表されている。化石燃料を減らし、原発による発電を減らす。これは非常に将来的に日本のあるべき姿であり、地方も貢献していく必要があるという意味では、非常に重要な再生エネルギー方式と認識する。電源開発が計画している檜山沖に72キロワット、基数72基以上と発表され、環境衛生法に基づく配慮書の縦覧がされている。江差町のスタンスと現時点での計画段階での進捗状況は。



せたな町に設置されている洋上風力発電

町長 配慮書の縦覧と合わせ、檜山海域の海底測量や漁業実態調査等を檜山漁業協同組合や町内

漁業者の了承を得て行う予定である。江差町のスタンスは、今後進められる環境影響評価法に基づく各種調査結果が出た段階で、多くの意見を拝聴したうえで判断したい。

再 一般海域での国の公募は30年使用可能の許可と思われるが、この認可時期がどのくらいに想定されているか。檜山海域、特に江差沖に立地されるメリット、デメリットをどう押さえているか。

まちづくり推進課長

環境影

響評価は概ね3年半で終えるスケジュール。洋上新法の促進区域になるためには、まずは有望な区域に選定され、一歩進んで初めて促進区域になる。その段階で国はこの海域の調査を始め、この場所は大丈夫となると事業実施という形になる。早くとも供用開始は2030年頃。有望区域の指定には、漁業者や地域の理解協議会ができる段階を踏まえ国が指定する運びとなる。洋上風力は漁礁にも使えるが漁業に制限がされることもある。企業

誘致も生まれ固定資産税や事業税、漁業振興、地域振興に対する還元策も想定される。ただし、今後事業者が決まり、それぞれの関係者の協議を踏まえての話であり、想定の範囲内ということである。

再 大企業が乗り出す可能性は十分あり、国の認可が受ければ、特に漁業者の影響は非常に危惧されるので、その意見を十分反映できるような体制を作る必要があると思うが。

再 町の中学校教員の時間外勤務の把握をされているか。また、今後の部活動指導員の配置は具体的に考えられているのか。

教育長 正確な記録はないが、月50から60時間台と伺っている。中には

「スマート農業の推進について」

農業分野の人手不足対策としてスマート農業の取り組み検討や支援も考えていく必要がある。そういう時代にもう来ていると思うが。

町長

町内農業全般において担い手は不足している。後継者不足、高齢化問題は全国的な問題である。当町では既に担い手農業者がドローンによる防除やGPSを使用したトラクターの運転を試みている。農業者の意見を伺いながら、ニーズや

情報把握に努め、必要な施策を検討していく。

再

近隣町と連携しながら、役場だけではなく、農業者と意見交換するような場を設ける必要がある。スマート農業の推進協議会等の立ち上げ予定はあるか。

産業振興課長

農業者と密接に連絡を取り合いながら今後のニーズ確認をし支援をしていきたい。今後必要であれば協議会も立ち上げていければと思う。

全体が同じ悩みを抱えるので、横の繋がりと庁内各課の連携を図り、少し勉強していきたい。

「教員の働き方改革に対する取り組みについて」

過労死ラインの80時間を超過している教職員もいる。時間外勤務の大きな要因の一つである部活動は、4月から部活動の方針を策定し展開している。以前と比べ週10時間以上は軽減されている。また、部活動指導員の配置は、業務が多様に渡り、適任者の確保が難しいのが現状。検討課題と考えている。

再

部活動の負担軽減や指導者の適任者については非常に大変な作業とは思いますが、具体的なアクションを起こす必要があるのではないか。

学校教育課長

部活動指導員は数多くの職務をこなさなければならず、誰でも良いとはならない。確保が難しく、募集しているが檜山管内からの応募はない状況。道教委とも連携しながら検討したい。

議会だより 6



小林くにこ 議員 (日本共産党)

9月定例会 一般質問

「公園の整備計画について」

子ども子育て支援事業計画第2期策定のためのニーズ調査において、江差町の子育て環境、遊び場について、近くに遊び場が無いとの回答が5割以上。遊具などの種類が充実していないとの回答が4割以上となっている。これらも踏まえ、総合的に江差町は子育てが「あまりし易くない」、「し易くない」との回答が合わせて5割近くになっている要因だと考えるが見解は。また、今後の各公園の整備計画は。

町長

ご指摘のとおりで、その理由は施設の充実、支援サービスの充実、地域の繋がりが、自然環境の順で良くないと回答された割合が高い結果となった。子育てのしやすさは複合的な要素により判断されるものと考えているが、施設の充実には、遊び場や遊具等も含まれることから、子育て環境に関する強い要望があるものと考えている。また、公園の整備に関して関心が高いと認識しているが、町内全体の公園機能の充



運動公園に設置されているバスケットゴール

実や遊び場の確保といった方針の策定について改めて検討したい。

再 ニーズ調査の回収率が高い数値となった。子育て世帯の意見が町政に反映されてほしいとの高い関心や、願いから高い回収率に繋がり、屋内外ともに遊び場のニーズが高いことは明確となった。これからの改善に向けた想定は。

財政課長

公園の整備に関する方針が遅れていることは大変申し訳なく思っている。鋭意策定に努めたい。これからの予算編成過程の中で検討し、計画期間は内容が固まったらお示ししたい。

「学校給食の無償化について」

町全体として子ども子育て支援計画で協議はしているとして以前答弁されたが、学校給食は安価で栄養バランスのとれ、無償化にすることで、子育て世代への大きな支援となる。学校給食の無償化について所見を伺う。

教育長

江差町教育委員会外部評価委員の意見でも「助成率の改正を検討すること」と意見を頂いており、必要性は十分認識しているが、子ども子育て支援施策の優先順位等を勘案し、補助率改正も含め無償化は課題と考えている。

再

課題として、継続的な予算の確保、議会住民の理解、食材費の高騰や転入者増への対応等、本町での学校給食無償化の議論の中で、一番の課題をどう捉えているのか。

学校教育課長 子ども子育て世代への優遇措置等もあるが、どの事業に重点を進めていくべきかということも施策の一つ。限りある予算の中での事業選択となることもご理解願いたい。

再再 財政的な問題が一番大きいと思うが、町長の方針次第で予算の問題も進むと思うが。

「運動公園の設備改善、生涯スポーツの推進について」

運動公園におけるバスケットボールで、ゴールポストの設置及びポスト周辺の駐車スペースを廃止し、プレイに支障が無いよう改善が必要と思うが如何か。また、その設備を活用した誰もが参加できる機会の提供も検討

教育長

今すぐ駐車場を廃止し、環境改善することは考えていないが、出来る範囲で支障が生じない方策を検討したい。また、イベントの開催は考えていないが、運動公園全体の活用策を更に検討

したい。

再再 駐車場は大会のある時に臨時駐車場として使用すれば良いだけではないか。

社会教育課長 大会のない時の利用方法について、もう少し具体的な方策を検討したい。



学校給食無償化による子育て世代への支援を



「降雨量の増大に対する 災害防止対策について」

町が管理している河川で、河川の洪水対策は何年確率降雨強度で計画されているか。それを超える場合の対策も取り組む必要があると思うがどうか。また、厚沢部川は年超過確率50分の1の降雨氾濫シミュレーションで公表されているが、支川は除外して扱っていると読み取れる。支川である鹹川

を含む浸水予測について、管理者である渡島総合振興局に申し入れ、結果を提示してもらおう考えは。

町長

五勝手川が平成7年の豪雨災害により被災し、その護岸復旧工事にあたり、10年確率の降雨強度により河道断面の設定を行い整備している。その他の普通河川は河川改修事業等により改修を

「各種計画の整合性について」

第6次総合計画、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画や北の江の島構想等、計画が個別に行われているが、どのような形で整合性をとるのか。関連スケジュールや相互関係について教えて頂きたい。

町長

各種計画の関連スケジュールは、年内を目途に各種の計画の素案を示すべく、鋭意策定作業を進めている。北の江

の島構想は、これらの計画策定段階をふまえ、年度内に全体像を示したい。江差町総合計画策定条例第6条の規定に基づき、分野別の各種計画との整合性を図るべく、現在調整作業を進める準備をしている。計画策定段階においては議会とも十分意見交換を行いたい。

再

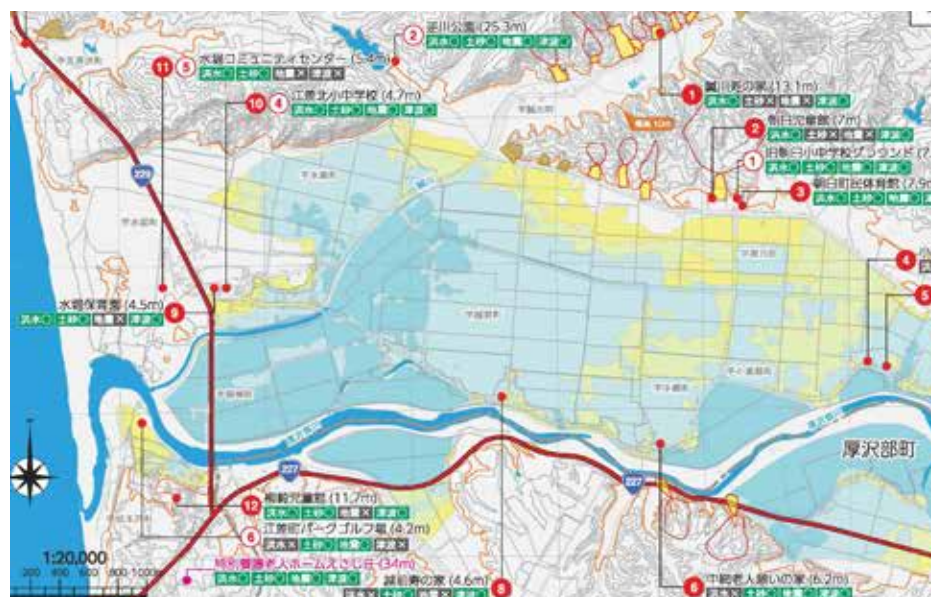
北の江の島構想は今年度、総合計画等は年内と話が合ったが、かな

実施した実績がないことから、設定をしている河川は無い。現状ではこれまで通り、降雨時の状況を注視しつつ日常の維持管理に努めていく。鹹川には水位計が設置されたことで、リアルタイムに水位の状況や監視が可能となり、簡易的な手法で示された浸水範囲を基に避難勧告、避難指示の発令範囲にも活用できるもので、今後の防災、減災対策に繋げていきたい。

りハードなスケジュールである。これらの指針は10年、20年先の町の方向性を示す重要な計画とされている。かなり鋭意努力しないと詰まってしまうと思うが、その懸念について伺いたい。

まちづくり推進課長

それぞれの計画の素案段階で整合性を図りたい。それをふまえ策定委員会、審議会でもみ、議会とも2回ほど協議をし、12月には整合のとれたものを整理したい。



河川の氾濫に対する防災、減災対策を



小梅 洋子 議員 (無会派)



「まちづくり推進につとめ」

第6期総合計画策定の町民ワークショップが2回開催されたが、参加者の大半は町職員であった。その協力にすごく心強く感じたが、中学生や高校生の参加はゼロでした。2回目は極端に少人数であった。周知のための開催案内をもっと早くにできなかったのか。2回目はまちカフェ協議体の集合日と重なっており、まちカフェ活動は年間計画が決まっている。共通の関係者もいるのになぜ同じ日の開催となったのか。まちづくりカフェの活動は地域課題も多岐に渡り、関係する各部署が連携を図り、住民主体の世代を超えた互助体制作りに向け構築していくとしていたが、その連携はどのようになされているのか何う。

道新夕刊に、課題も達成感も日本一の役所ですと大きな見出しで夕張市職員の笑顔満載の記事が

掲載された。町を良くしたい。真の魅力を伝えたいとの一心で立ち上げたそうだが、これぞ正しく安心して暮らせる町、魅力ある町の象徴であり原点ではないか。職場、職員の活気が地域の活力に即繋がると思うがどう考えるか。町長は自分と同年代の若手夕張市職員の心意気をどう受け止めるか。また、江差町若手職員の育成をどのように考えているか。

町長

ワークショップ

の開催案内が約1週間前であり、町内会等の団体の周知期間等を鑑みると配慮に欠けていたことは否めない。今後は事前周知期間等に十分意を配していきたい。また、まちづくりカフェの地域支援協議体の日程と重なったことは、町の行事日程を決定するプロセスにおいて調整不足である。今後は各課所管事業の情報共有を図り、同様の会議等

が重複しない行事日程となるよう努める。まちづくりカフェの活動連携は、今後も関係課と連携を図りながら互助体制の構築に努めたい。

夕張市職員の記事では、職務としてではなく、若手職員が自らの意思で立ち上がり、それを行動に移すというエネルギーに満ち溢れる行動であったと捉えている。当町でも財政健全化団体での歳出削減の際には、少ない予算で住民サービスを維持させるのか効果的な事業の進め方等、職員個々が自ら考え行動したという経験を活かして職務にあたっているところである。職員には多くの研修に参加し、自らのスキルアップを目指した中で原点回归し、町民視線を重視する想像力を持った職員像を目指していきたいと考えている。

再

若手職員だけではなく、中堅、課長も含めて意思の疎通を図りながら信頼関係を築き、それを保つことが大変大事だ

と思う。そのためには話し合いの場が必要で、町長は初めの頃、職員との年代別の懇話会を持っていたが、それは今も続いているのか。

総務課長

職員の顔

町民の意見を聞くために2か所で開催されたワークショップ

(左上) 文化会館
(右下) 水堀コミセン





大門 和幸 議員 (無会派)

9月定例会 一般質問

「幼児教育、保育の今後のあり方について」

令和元年度ですなろ幼稚園が廃園となり、町内には江差幼稚園と町立の保育園が3園となる。

少子化により幼児が減少する中、江差町における幼児教育、保育の今後のあり方について、現在どのような検討がなされているのか伺う。また、日明保育園と水堀保育園の統廃合について、検討すると聞いていたが、現状について伺う。

町長 市町村が定める子ども子育て支援事業計画において、利用定員総数や教育、保育の量の見込み、教育、保育の提供体制等を規定することとされている。現在、町では来年度から始まる第二期江差町子ども子育て支援事業計画を策定するため、小学校以下の子がいる保護者を対象に実施したニーズ調査結果や人口推計結果、更にはこれまでの幼稚園、保育園の利用状況等を基に、子ども子育て会議での検討を進めているところであり、近年の保育所等の利用率の高まりや、幼児教育の

無償化等を背景に、幼稚園保育園の入所者の大幅な落ち込みはないものと考えている。

また、北部保育園の管理に関する今後の方向性として、園児数の減少に伴う統廃合と多機能を加えた複合化を検討することとしている。現時点では両保育園の入所児童数の推移や維持管理費、入所児童数に応じた保育士数等に関する分析を行っている。昨年度、小学生以下の子供がいる保護者を対象に実施したニーズ調査において、北部保育園の今後のあり方や立地設備面で重視すべき点について意向調査を行なったところ、2園のいずれかを新築し統合すると回答した割合が、約半数を占めたほか、立地条件として家からの距離や職場通勤経路からの距離、設備面では清潔感や安全対策への関心が高い結果となった。いずれにしても人口の推移、地域や父母等の理解、更には財源対策等も含め、いつの時期に整備するのかを引き続

き検討していきたいと考えている。

再 日明保育園と水堀保育園の統廃合について、いずれ統合するとしても預ける親御さん達が不便にならないような立地条件等を検討して、統廃合していただければと思うが、今のところ場所はどこにするとか、まだ計画段階で決まっては

ないのか。

町民福祉課長 現時点においては、具体的にどの地区に統合する、もしくは、統合しないということも含めて、まだ検討している段階であり、明言できる段階ではない。

ただ、保護者の方が不便にならない、それが立地的な場所の問題とした時に、例えば送迎の問題であるとか、そういった部分の配慮は必要なことと考えている。



老朽化し安全性の確認が必要な日明保育園

「保育園の老朽化に伴う安全性の確保について」

日明保育園及び水堀保育園は、築40年以上経過しており、老朽化が進んでいる。園児の安全面について、町として現状をどのように把握し、その対応をどのように考えているのか伺う。

町長 施設老朽化に伴う安全面対策としては、毎月開催の保育士との連絡会議において、施設や設備の確認をし、施設の計画的な維持補修に努め、突発的な事案に対しても随時対応を図っている。

火災や地震を想定した避難訓練を毎月実施しているほか、災害等の非常時における入所児童や職員等の生命と安全を守るための防災マニュアルを策定し、安全性の確保に努めている。

再 目に見えるところは、古くなつてるとわかるので修理し対応していると思うが、築年数が40年以上経過しており、災害時、地震等がおきた場合、倒壊の恐れはないのか。

町民福祉課長 施設の耐久度の調査をした経緯はない。大規模な地震が

発生した場合は、その程度にもよるが、施設がどの程度維持できるのかは、その状況に応じて検討していかなければならず、目視や気付いた部分は随時補修を加え、維持管理に努めているところ。

再 地震などの倒壊の恐れが分らないというところであれば、万が一地震がきた場合倒壊し、中にある保育園児が怪我する場合もあり、避難もできない状況になると思うので、それは早急に調べる必要があると思うが如何か。

町民福祉課長 災害対策として防災マニュアルで定めている。地震は、揺れの状況に応じてすぐ園内から避難をする。火災等においても、その状況に応じて対応を図る。

まずは日常の保育業務の中で、危険を察知した場合においては、マニュアルに沿った避難、子どもの生命、職員の安全、生命を守るという対応を図っていく。



「地域防災について」

昨年、江差町地域防災計画が策定され、基本は自助、いわゆる自らの安全は自ら守る。共助、町民等がお互いに助け合う。

そして、公助、町及び関係機関が実施する対策をすることである。行政として、各関係機関と連携をし、最大限の防災に努めなければならないと考えている。1点目、各機関、関係機関との連携はどのように行われているのか。2点目、住民の防災意識向上を図るため、訓練や教育をどのように実施されているのか。3点目、避難路等の管理はどのように行われているのか伺う。

町長 1点目は、江差町防災会議において、平常時から情報交換を行うこととなっている一方、本年5月に実施した避難訓練では、関係機関にも要請し、実際に参加して

頂き、加えて自衛隊、海上保安署とも伝達訓練を行う等、災害時における対策について確認を行ってきたところである。2点目は、地震津波を想定した実践的な訓練として、2つの町内会、自治会に参加して頂き、避難訓練と避難所運営訓練を実施した。また、町内会が実施する防災訓練に担当職員を積極的に参加させ、図上訓練を行うことで、地域における防災対策への意識と強化が図れているものと思っている。今後、未実施の町内会にも積極的に開催を呼びかけ、更なる意識の高揚を図っていききたい。防災をテーマとした地域別まちづくり懇談会においても、町内会の皆さんと防災に関し意見交換をさせて頂き、共通認識にたつて、今後の防災、減災対策につなげるものと確信して

いる。また、北海道の呼びかけにより、町教育委員会及び各学校が連携し、1日防災学校が実施され、防災教育としての一翼を担っているところである。3点目は、道路、小路、治山に伴う管理用階段等で異なるが、整備の中でも草刈りに関しては、形態により町内会または職員による直営で行っている現状である。今後は状況を確認しながら、町内会とも協議、連携し、避難路の管理に努めていきたい。

再

防災に関して大事なことは、本当に有事の時にいかに迅速に対応できるかと、日頃から防災の意識をどれだけ持てるか、心構えしておくかが大事かと考える。東日本大震災の釜石の奇跡は奇跡ではない、子ども達が日頃から防災意識が高く、日頃からの教育、訓練の結果が、いわゆる奇跡を生んだと感じている。そのことから、各地域ごと

に定期的に実践訓練を行うことが必要だと考える。先般新聞に各市町村の本庁舎非常用発電機設置状況が記載されていた。当町ではどういような状況になっているのか伺う。

た、役場庁舎の非常用電源の状況は、全ての機能を平時と同様に使用した場合には、報道にあつたように8時間となる。ただ、ブラックアウト時には、最小限に抑え、20時間の稼働実績となったのも、これもまた事実である。このような状況であるが、給油を繰り返すことで72時間以上維持でき、当町は、燃料備蓄はしていないが、函館地方石油業協同組合との協定により、町内2業者からは優先的に給油されることになっている。

総務課長

ここ数年、

町民参加の避難訓練を行っていないが、本年5月に2つの町内会に参加をしていただき、避難訓練と避難所運営訓練を行ったことは、実践的な訓練ができたものというふうに捉えており、今後、地域を変えながら取り組んでいきたい。ま



避難路の周知と訓練の実施を



「檜山沖大規模風発事業について」

配慮書では、洋上発電所の実施想定区域に入る自治体及び漁業協同組合との協議をふまえて今回の計画を出している」と書かれている。今後の江差の漁業のあり方、檜山の漁業のあり方が大きく変わるかもしれない大規模な事業計画であり、町として、どのような協議をし、意見を述べてきたのか。また、漁協、漁業関係者などという意見交換をしているのか。

騒音は、2キロの範囲を含めて影響が生じる可能性があると予測すると事業者も認めている。町として事業者に対し、騒音影響が生じないよう対策を取るよう意見で求める必要があると思うが。

超低周波音は、健康影響に明らかな関連を示す知見が確認されていない理由で、配慮書の検討項目には入っていないが、調査、予測及び評価を行うよう、町として求める必要があると思うが。

景観では、風力発電機に対して圧迫感を感じる

等の影響が生じる可能性がある」と事業者も認めている。こういう恐れがあるのであれば町長の意見として現段階から述べる必要があると思うが。

町長 事業者の計画等を十分に精査し、関係機関や漁業関係者等と協議のうえで判断したい。町長意見は、漁業者はもとより、住民の健康被害や景観、自然環境、更には住居や施設、海上交通等に懸念されることが多岐に渡ることから、地域への影響を最大限考慮した形で意見を付したい。

再 専門家を交えた検討会等をつくり、誤りのない判断をする仕組み作りについての見解は。全国的な事例等も参考にし、ゾーニングを作るべきだと思いが如何か。配慮書は縦覧期間後は見られず、ネットからダウンロードもできない。膨大な資料等はいつでも見られるように求める必要があると思うが。

まちづくり推進課長 事業主体である電源開発で、法

的根拠はないが、配慮書の段階で説明会を行い、参加者から意見をもらっている。今後も住民説明会を行うとしており、町は、まず配慮書に対しての意見を北海道庁から求められているので、検討を加え、懸念される部分は意見を付していきたい。

再 対策は檜山一体での課題。勉強すること、は、檜山全体でやった方が効果的だと思うが。

副町長 管内共通事項として進むと思っている。



高齢者の生活を支える体制づくりを

「高齢者の生活支援について」

生活支援コーディネーターが地域に入っ

ターが地域に入っの聴取や地域支え合い協議体の中でいろんな協議がされているはず。生活支援体制整備事業でくられいているが、どのように進めようとしているのか。また、食事の困難な方への対策は、今どのような検討をされているか。

町長 町民とともに、試行錯誤しながら様々な取り組みを行ってきた。住民の活動から、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進めたい。

再 協議体やコーディネーターの活動、まちカフェでの論議されてる課題を整理し、来年度に向けてどう進めているか伺う。また、町の独自事業となれば、総合計画等や介護保険8期事業計画へ、どう入れ込むのか。

高齢あんしん課長 町内に

ある任意団体との連携で検討しており、地域で支え合える体制を踏まえながら、反面、総合事業でどのような生活支援サービスをリンクしながら、それをどう進めて行けるのか制度の再構築を図っており、第8期介護保険事業計画策定に盛り込む作業を進めている。

再 介護保険を受ける前段で要介護や要支援の認定を取らなければならぬが、介護認定等の申請を希望される場合、全ての申請を受理するか確認したい。また、住宅改修のサービスが申請から決定するまで、適切な期間で処理されているか。

高齢あんしん課長 ご相談等々に来られた場合、まず、制度を誠心誠意ご説明させて頂き、判断をして頂いており、拒否することはない。住宅改修は、約2日から2週間位。改修内容によっては、審査期間が異なることによるものである。

～常任委員会、今はこんなことを調査しています～

よりよい町づくりのために

調査中です！

総務産業常任委員会『自然エネルギーに関する事務調査』

社会文教常任委員会『地域防災に関する事務調査』

総務産業常任委員会（西海谷委員長）と社会文教常任委員会（塚本委員長）は、それぞれ令和元年第3回定例会で事務調査をおこし、現在、継続して調査を行っています。

9月定例会で発議して以降、担当課からのヒアリングを行い、今後、行政視察や意見交換をしながら、さらに委員会で調査を行い、どのような報告とすべきか話し合われていきます。

全員協議会を開催しました！

8月23日、9月4日開催した全員協議会について、その内容をお知らせします。

8月23日

・町内事業者による宿泊施設整備計画等について

まちづくり推進交付金（宿泊施設整備促進事業）を活用した簡易宿泊所施設の整備概要等について、補助交付要望額や多目的室の利用計画等の提出がされたことの説明がされた。

9月4日

・まちづくり推進交付金（宿泊施設整備促進事業）について

前回提出された簡易宿泊所施設整備概要のうち、多目的室の利用方法等について事業者から変更の申し出があったことの説明がされた。



出欠状況をお知らせします！

令和元年7月1日から9月30日の出欠状況です。斜線部分は出席する必要のない会議です。

会 議 名	会議日	総務産業常任委員会						社会文教常任委員会					議長
		西海谷 望(委)	出崎 太郎(副)	薄木 晴午	飯田 隆一	小野 寺 真	萩原 徹	塚本 眞(委)	小林 くにこ(副)	室井 正行	小梅 洋子	大門 和幸	
第1回臨時会	8月19日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第3回定例会	9月11日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
全 員 協 議 会	8月16日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8月19日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9月4日	○	○	● (私用)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総 務 産 業 常 任 委 員 会	8月19日	○	○	○	○	○	○						
	9月4日	○	○	● (私用)	○	○	○						
	9月25日	○	○	○	○	○	○						
社 会 文 教 常 任 委 員 会	8月19日							○	○	○	○	○	
	9月4日							○	○	○	○	○	
	9月25日							○	○	○	○	○	
議会広報特別委員会	8月19日	○	○					○	○			○	
	9月11日	○	○					○	○			○	
議会運営委員会	8月19日	○			○	○		○		○			
	8月26日	○			○	○		○		○			○
	9月4日	○			○	○		○		○			○
決算特別委員会	8月19日	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	9月11日	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	9月25日	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
江差町総合計画 等特別委員会	9月25日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

○：出席 ▲：欠席（公用） ●：欠席（葬儀・病欠・私用）

議会の動き

- 7月17日 ◆議会広報特別委員会（出席5名）
・8月号議会だよりについて
- 29日 ◆江差町・上ノ国町学校給食組合議会第2回定例会
- 8月16日 ◆全員協議会（出席12名）
◆新任議員説明会
- 19日 ◆第1回臨時会（出席12名）
- 23日 ◆全員協議会（出席12名）
- 26日 ◆議会運営委員会（出席6名）
・第3回定例会の運営について
- 27日 ◆江差町・上ノ国町学校給食組合議会第2回臨時会
- 9月4日 ◆議会運営委員会（出席6名）
・第3回定例会の運営について
- ◆議会全員協議会（出席11名、欠席1名）
- ◆総務産業常任委員会（出席5名、欠席1名）
- ◆社会文教常任委員会（出席5名）
- 11日 ◆第3回定例会
◆決算審査特別委員会（出席10名）
◆議会広報特別委員会（出席5名）
・9月号町広報への掲載について
- 25日 ◆決算審査特別委員会（出席10名）
◆江差町総合計画等特別委員会（出席11名）
◆総務産業常任委員会（出席6名）
・自然エネルギーに関する事務調査
- ◆社会文教常任委員会（出席5名）
・地域防災に関する事務調査
- 10月3日 ◆檜山広域行政組合議会第2回定例会
- 8日 ◆総合計画等特別委員会（出席11名）
◆総務産業常任委員会
・自然エネルギーに関する事務調査
- 9日 ◆渡島・檜山管内市町議会議員研修会（北斗市）
- 11日 ◆社会文教常任委員会（出席5名）
・地域防災に関する事務調査
- 18日 ◆総合計画等特別委員会（出席11名）
- 21日 ◆決算審査特別委員会（出席10名）
- 23日～ ◆決算審査特別委員会（出席10名）
- 24日 ◆議会広報特別委員会（出席5名）

清掃活動を行いました
～江差町議会議員会～

江差追分全国大会を前に、9月13日、江差町議会議員会（会長：塚本 眞）がかもめ島前浜とえびす浜の清掃活動を行いました。江差を訪れる観光客や追分関係者の皆さんが、気持ちよく江差で過ごして頂きたいとの思いから、毎年実施し、今回で4回目となりました。（町長、副町長、教育長にも参加して頂きました）

令和元年度渡島・檜山管内市町
議会議員研修会に出席しました！

今年度より、渡島町村議会議長会と合同で実施され、10月9日、北斗市総合文化センターかなで～るを会場に開催されました。渡島管内10市町、檜山管内7町の議員が集まり、「地域づくりは人づくり～地域連携によるキャリア開発の実践～」(講師：日本経営協会講師 田崎悦子氏)と「チャンスは大チャンスに！～道南の食と観光の磨き上げ～」(講師：北海道経済部産業振興監 甲谷恵氏)の講演が行われ、江差町からは7名の議員が参加し、真剣に講演を聞いていました。



今号の表紙

☆江差町立あすなろ幼稚園最後の運動会

あすなろ幼稚園の運動会が開催されました。園児7名に加え、卒園生30名が応援にかけつけ、園児は元気よく体育館を駆け回り、父兄と卒園生も最後となる運動会を盛り上げていました。



（議会広報特別委員会副委員長 塚本 眞）

道南地区森林・林業・林産業活性化
推進議員連盟連絡会総会に出席！

10月2日、今金町民センターを会場に道南地区森林・林業・林産業活性化推進議員連盟総会及び研修会が開催され、4名の議員が出席しました。総会では、当年の活動報告や予算等が全会一致で可決され、講師では、林野庁北海道森林管理局局長の新島俊哉氏より



「森林資源が充実してきた今だからこそ考えなければならないこと」について講演されました。